第５回　荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

議　事　要　旨

■日　時：令和５年２月６日（月）　13：30～15：30

■場　所：Web 会議形式（Zoom）

■議事要旨

１．これまでの経緯について

（１）アクションプラン策定経緯、および前回協議会・WG 議事要旨の確認【資料１】

・アクションプラン策定までの経緯と概要、昨年度実施の前回協議会及び今年度実施の WG の議事要旨について確認を行った。

２．荒川流域エリア・アクションプランの推進について

（１）令和４年度 協議会活動結果のご報告【資料２】

・アクションプランに関する取り組み結果の説明を行った。

（２）令和４年度 地域関係者における取り組み事例のご紹介

・吉見町より環境保全に関する取り組み状況、埼玉県環境科学国際センターより生物多様性センター新設とその取り組みについて情報提供された。

（３）今後の取り組みについて【資料２】

・令和５年度 協議会活動計画（案）について確認を行った。

・次年度以降の協議会活動について意見交換を行った。

３．その他

・埼玉県 SDGs 官民連携プラットフォームへの参加について確認を行った。

■配布資料

・議事次第／出席者名簿／規約・委員名簿

・資料１　これまでの経緯（前回議事概要）

・資料２　荒川流域エコネット地域づくりの推進（令和４年度結果・令和５年度計画案）

資料２（別冊 詳細版）令和４年度 取り組結果・令和５年度 取り組み計画（案）

・広報資料集（ニュースレターなど）

・荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン

■出席者

構成	氏　名	団　体　名　等
学識経験者	浅枝　隆	埼玉大学　名誉教授
	髙木　嘉彦	(公財)埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園 副園長
	日橋　一昭	那須どうぶつ王国　教育・普及啓発プロデューサー
	長谷川　雅美	東邦大学　理学部　教授
関係自治体	並木　正年	鴻巣市長
	小野　克典	桶川市長
	三宮　幸雄	北本市長
	小川　福美	吉見町　副町長
関係行政機関	森田　梢	埼玉県　環境部　みどり自然課　主査
	川鍋　将司	埼玉県　農林部　農村整備課　主事
	髙野　利子	埼玉県　県土整備部　河川環境課　主査
	岡本　慎吾	埼玉県　環境部　環境科学国際センター　主任
	斎藤 充則	国土交通省　関東地方整備局　河川部　河川環境課長
	大東　淳一	国土交通省　関東地方整備局　荒川上流河川事務所長
オブザーバー	戸田　博史	環境省 関東地方環境事務所 野生生物課
事務局	野口　典孝	荒川上流河川事務所 河川環境課長

■議事内容　【◆：資料説明・発表、○：意見、●回答】

１．これまでの経緯について

（１）アクションプラン策定経緯、および前回協議会・WG 議事要旨の確認

◆　事務局

【資料１】これまでの経緯（前回議事概要）について説明

→意見なし。

２．荒川流域エリア・アクションプランの推進について

（１）令和３年度 協議会活動結果の報告

◆　事務局

【資料２】荒川流域エコネット地域づくりの推進（令和４年度結果・令和５年度計画案）のうち令和４年度の取り組み概要（主な活動結果）について説明

○　長谷川委員

荒川上流河川事務所でも流域治水を推進しており、大規模な水災害が起きた際には緊急的なプロジェクトとして河川整備事業を行ってきたと思う。そういった事業の中で、どのようにグリーンインフラに対応させていくかといった具体的な検討を実施することが重要である。例えば、関東エコネットにおいてはできるだけ事前に（事業計画の）情報を得た上でグリーンインフラに適用する計画を作ることが重要であると議論をしているところである。

残念ながら荒川はまだコウノトリは来ていないが、河川整備事業の中でどのようにグリーンインフラを適用するかという本筋が今の説明からは若干感じることができないため、今後真剣に議論していただきたい。

魚類などの川の生物や生態系を地域連携で豊かにすることと、エコネットとグリーンインフラとの関係をしっかりと検討した上で事業に落とし込むといった観点で議論を進めてほしい。

●　浅枝座長

おっしゃる通りで、令和５年度に議論できないかと考えていたところである。先日、国交省の方と話した際に、国交省は河川の事業はできるが、提内地の事業はできないため、自治体の事業や活動などと連携・協働して流域治水に貢献したいと考えているといった話を伺った。ただ、それには単にコウノトリが飛んできただけではダメで、どのくらいの治水効果があるかを見積もっていく必要があるのではないか、という議論になった。荒川流域でもこれからは科学的に議論できるような形にしていくべきだと考えている。

○　桶川市長

この荒川流域におけるエコネット地域づくりについて、桶川市としても自然保護の面だけではなく、地域振興また地域経済の活性化という面では大変効果のある取り組

みが今後展開できるのではないかと考えている。

桶川市では第六次総合計画の計画期間が新たにスタートするところであり、ひとりひとりの環境に対する意識を高めながら脱炭素、また循環型社会の形成を目指すとともに、桶川の緑の保全や、緑豊かな美しい風景を次世代に引き継ぐことができるまちづくりというものを進めていきたいと考えている。

現在、荒川サイクリングロードから近い場所で、道の駅整備事業（令和７年３月開業予定）を進めているところである。新たな交流や賑わいが予想される地域振興、地域活性化の拠点となる施設であるため、荒川の自然と結びつけて荒川流域エコネットと色々な取り組みを進められるのではないかと期待している。

また、桶川市のスカイスポーツを目的に全国から人が集まってきているため、そういった立地条件もいかしながら、さまざまな取り組みを進めていきたいと考えている。

（２）令和４年度 地域関係者における取り組み事例のご紹介

◆　吉見町 環境課

【画面共有資料】吉見町・環境保全に関する取り組みについて説明（ボトル to ボトル協働事業、吉見町地球温暖化防止パネル展 2022、よしい GK 作戦、親子自然観察会、外来種駆除等）

◆　埼玉県環境科学国際センター

【画面共有資料】生物多様性センター新設について説明（情報の収集・管理・発信、地域保全活動の支援、調査・研究、教育・普及啓発等）

（３）今後の取り組みについて

◆　事務局

【資料２】荒川流域エコネット地域づくりの推進（令和３年度結果・令和４年度計画案）のうち令和４年度 協議会活動計画（案）について説明

○　北本市長

北本市では令和３年度より、環境省が提唱するローカル SDGs と言われる地域循環共生圏の取り組みを行っている。この地域循環共生圏は、脱炭素資源循環、そして生物多様性を柱として、自然や住民、あるいはコミュニティ等の地域資源を最大限に活用することで、持続可能な社会をつくっていく考え方である。この地域循環共生圏の啓発を目的にシンポジウムを２回開催しており、そのなかで北本市の荒川河川敷にある田んぼには、都市近郊にありながらとても多様な生きものが生息していることが分かった。こうした地域資源を、北本市のローカルブランドとして磨き上げ、これからも地域の活性化に取り組んでまいりたい。

また、今年は株式会社モンベルと包括連携協定を結んだところであり、今後、モン

ベル、小鹿野町、武蔵野銀行と連携した事業をスタートさせる予定もある。先般はSUP（スタンドアップパドルボード）で、長瀞から北本水辺プラザ公園まで荒川を下る大会を開催されたということも伺っており、そうした活動とも連携して、今後のまちづくりを進めていきたい。

○　鴻巣市長

コウノトリ野生復帰センター天空の里が、無事に１周年を迎えることができた。今現在、鳥インフルエンザの影響で臨時休館となっているが、天空の里は実際にコウノトリを間近で見ることができる施設であり、子ども達の環境学習の場としてよく活用いただいている。今後も生きもの調査体験会を予定しているとのことだが、そういった協議会の活動を含め、近隣市町の皆様にも環境学習や情報発信の場として、ぜひ有効に活用していただきたいと考えている。

その他の鴻巣市の取り組みとして、昨年10月のコスモスの見頃に合わせて「こうのとりマルシェ」を開催した。鴻巣市外の方々にも多く足を運んでいただき、2日間の来場者数は2,500名を超えた。JA農業協同組合を始め、地元の事業者の皆さんの出店や推進協議会にも出展いただき、賑わいのあるマルシェを開催することができた。今後ともご協力をお願いしたい。

また、コウノトリの放鳥に向けた環境整備として、荒川大間地区の自然再生事業の早期完成をお願いしたい。特にこの場所は川幅日本一を有する荒川を軸としている。推進協議会の取り組みとの連携により良好な水辺環境の保全ができれば、コウノトリの採餌環境としての効果に期待ができる。また、今年の６月には大間近隣公園がオープン予定となっており、こちらも推進協議会との連携により、地域振興・経済活性化の効果も期待できるものと考えている。鴻巣市では天空の里がオープンしたことで、地域全体の機運が高まっているところであり、荒川の自然再生事業についても、早期の完成を期待している。

●　浅枝座長

確かにコウノトリをきっかけとした自然環境の改善や地域活性化の繋がりもあるが、貯水機能のある田んぼがたくさんあり、流域治水にも貢献しているということを市民の方へ伝えてほしいと思う。

○　吉見副町長

吉見町では、来年度から運用予定の第二次環境基本計画の策定と合わせて環境保全啓発事業も進めているところである。パネル展及び清掃活動等には推進協議会にも協力をいただいたところである。今年の５月には第一回吉見環境フェアを開催予定のため、本協議会及び関係自治体の皆さまにもぜひ参加いただけるとありがたい。

また、令和５年度の推進協議会主催の生きもの調査体験会の会場は八丁湖周辺が予定されているため、県の蝶に指定されているミドリシジミが確認できるのではないかと期待している。引き続き協議会の活動のなかで多くのことを学ばせていただき、皆様と連携していきながら、魅力的な地域づくりの実現に向けて事業を進めていきたい

と考えている。

● 浅枝座長

吉見町は素晴らしい観光地がたくさんあるため、広く宣伝いただき観光客を増やしていっていただければと思う。

○ 桶川市 環境経済部

令和４年度も引き続きコロナ禍による活動の制約があり、生きもの調査体験会なども多くの方に参加いただきたくても人数制限せざるを得ない状況であったと思う。令和５年度になれば、徐々にコロナ禍前の日常生活に戻ってくるかと思われるため、桶川市としてもそういった活動への参加や、参考になる部分を取り入れていきたいと考えている。

また、桶川市においてもごみや外来種は大きな問題として残っている。ごみ問題については、プラスチックごみが生物環境に大きな影響を与えるといったところを、市民の皆様に啓発を図っていきたいと考えている。外来種については、アライグマが多く、桶川市だけではなかなか解決に至らないため、地域連携の枠組みのなかでも対策を進めていければと考えている。

● 浅枝座長

例えばプラスチックを再生利用する場合、ペットボトルからペットボトルと、ペットボトルから他のプラスチックに再生するのでは、エネルギーの消費率が大きく異なり、前者の場合に効率が良いそうである。是非、市民の方にもそういった観点で、ゴミの分別について考えていただき、環境負荷を減らしていければ良いと思う。

○ 埼玉県みどり自然課

埼玉県はアライグマの被害が深刻なため、アライグマ防除実施計画を策定し、県と市町村が連携して防除を進めている。捕獲の際には位置や性別の情報を提供いただき、それを基にアライグマ生息ポテンシャルマップを作成しているため、皆様にも参考にしていただきたい。また、荒川流域の話と離れるかもしれないが、クビアカツヤカミキリの被害も拡大しているため、補助金制度により市町村での防除を支援する形で対策を進めているところである。

● 浅枝座長

アライグマは見た目がかわいい動物であることから飼ってしまう方がいて、飼いきれずに放してしまったことが、今のように広がった問題の一因になっているともいわれている。アライグマに限らず、最後まで飼育せず放した場合、最終的に彼らを殺処分しなければいけなくなる。それは、命の大切さを説く一方で、とんでもないことをせざるを得ない状況である。そういった意味で、子どもから親世代まで、多くの方々に飼育における責任を理解してもらう必要があるかと思う。

○　埼玉県農村整備課

農村整備課では多面的機能支払交付金という事業を推進しており、それを利用して生きもの調査や、ジャンボタニシ等の外来種駆除を独自で行っている地域の方々がいる。荒川流域の地域に限った話ではないが、情報提供として報告する。

●　浅枝座長

先ほどの流域治水の話にも繋がるが、提内地の活動が重要になってくるため、そのあたりも配慮いただければと思う。

○　埼玉県河川環境課

河川環境課としては一級河川の管理がメインとなるが、様々な利用者がいるため、やはりゴミ問題がでてくる。生物環境保全の観点からも、ゴミが多いところだと生物が生息ができないと考えているため、県では川の応援団として美化活動を行う団体の登録を受け付けている。現在 400 以上の団体から登録があり、地域の方々や企業の方、学校などが可能な範囲で環境保全のために頑張って取り組んでいる。イベント等をとおして、小さいお子さんに自然環境について興味を持っていただくことで、ゴミ問題についても啓発していきたい。

○　埼玉県環境科学国際センター

当センターでは生物多様性センターなどにおいて、幅広く取り組みを進めているところであるが、例えば生きもの調査による生物データの整理・結果データの共有や、環境学習・観察会の推進、広報の展開、マイマップでの公開に向けた検討、また、関係者間のネットワーク支援など、アクションプランには私どもが行っている活動と共通するような部分も多いかと思う。推進協議会の取り組みの進め方等を参考にしたり、情報共有するなど、ぜひご協力させていただければと思う。

○　関東地方整備局　河川環境課

私どもでは、荒川流域エコネット地域づくりを始め、他の地区でも同様に行われているこういったネットワーク活動同士をうまく連携してできるようにと、関東全体のエコロジカルネットワーク推進協議会を設置している。この関東エコネットは、来年度で設立十周年を迎えることになる。皆さんと共に 10 年間の成果を振り返るような記念行事などで、さらにエコネットの応援団を獲得できるような PR 活動を積極的に進めたいと考えている。

○　髙木委員

埼玉県こども動物自然公園が鴻巣市のコウノトリの飼育業務を請け負っているが、このところコウノトリのペアの調子がよく、うまくいくと今年放鳥できるのではないかと期待を寄せているところである。千葉県野田市が先行して放鳥しているが、当初

はあまり野田市には戻ってこなかったが、３～４年経過したら戻ってくるようになってきたという事例がある。それを踏まえて考えると、この荒川流域も放鳥した個体が戻ってきてくれた際に定着できる環境があることが重要となる。コウノトリの放鳥自体というよりは、コウノトリが生きていける環境があるということの大切さを、このエコネットの取り組みを通して皆さんに伝えていなかければいけない。そう考えていくと、やはり大間地区の湿地再生や近隣公園の整備とあわせて、流域治水の取り組みを進めてほしい。また、埼玉県の花で天然記念物にもなっているサクラソウは河川の氾濫原となるような場所に生育する植物である。そういった場所や、かつては生育していた地域でも、また確認できる環境に戻していく活動を進めることで、流域治水にも繋がっていくかと思う。

●　浅枝座長

荒川本川とは直接的に関係しないが、元荒川近隣にあったサギ山がなくなった。地域としてもサギ山が減っている問題は解決できないだろうか。

○　髙木委員

東松山の一部でもサギ山が増えたり、実は埼玉県こども動物自然公園内でも少し増えていたが、2019 年くらいにぱったり数が減っている。やはり冬季に渡っているなかで数が減ったか、渡ってくる前の地域で捕食されたのではないかなど、いろいろと推測できるところはある。ただ、サギ自体は集団性が強いため、よい環境があれば集まってくるが、集まれば集まるほど騒音や糞尿の問題が出てくるという一面があり、サギ類の保全は難しいといった感想を持っている。程度の問題かと思うが、武蔵丘陵森林公園では、カワウが大量に繁殖しているため、対策を講じている例もある。サギ類もカワウも、人との共存が難しいと感じたが、コウノトリはその分、集団にはならないため、また違う結果にはなろうかと思う。

○　日橋委員

埼玉の空にコウノトリを放そうと言ってから 40 年以上が経過した。はじめの頃は何を言っているのかと言われることもあったが、ようやく環境が整ってきた。今、ようやく、縦糸が繋がってきたという感じがする。この縦糸にこれから横糸を繋げていくところかと思う。各自治体で進められていることは、それぞれの事業であり、例えば 10 周年を迎えた時に子ども達を動物園に集めてサミットを開催するなど、一帯となった取り組みができないだろうか。なかなか難しいことかと思うが、これからの地球環境を考えると、子ども達に頑張ってもらわざるを得ない。我々はある意味そこまで辛い状態に直面せず、いろんな事を享受し、その分のツケを子ども達に回してしまったとも言える。よって、なるべく、子ども達が頑張っていけるよう、応援する取り組みができたら良いと思っている。

なお、コウノトリの紹介ポスターはよくできているが、動物園の協力については一言も書かれておらず、推進協議会の委員には動物園関係者が二人も入っているのに、リスペクトがないと感じる。

那須どうぶつ王国と埼玉県こども動物自然公園も加盟している、日本動物園水族館協会では、10年くらい前から環境省と包括協定を進めており、ヤマネコ類やライチョウ、埼玉ではアマミトゲネズミなどの希少野生動物の域外保全を進めている。その協定のなかの取り組みとして位置づけられているのが、外来種に対する普及啓発である。動物園にはたくさん人が訪れ、多いときには20万～100万の人が集まる。そういった場を利用して啓発に努めることが大事なのかと思う。

もちろん、自治体の皆さんが子どもを対象にした調査会などのイベントを開いたりするのも大事で、質の高いものができようかと思うが、参加者が30人程度というのは少なすぎる。コロナ禍で難しいとしても、参加人数を増やしていくことが必要かと思う。

○　長谷川委員

先ほどと同じ話になるが、コウノトリのために流域治水があるわけではなく、流域治水が進められることでコウノトリが定着し、毎日見ることができるようになるというのが本来の流れである。

日ごろから水害への危機意識を高めてもらうためには、普段から川に対しての関心を持っていただくことが大事だと思う。そういった意味で、川の氾濫により財産や田畑が流されてしまうということへの対策として、治水の取り組みが行われていると意識すること、さらに、それがコウノトリ野生復帰の取り組みにも寄与するのだ、というような、ある意味、逆転の発想が大事ではないかと思い始めている。

年末年始に荒川に注ぐ都幾川や高麗川等を見てきて、改めて扇状地であり、その扇状地の集合体という形で荒川流域があること、また、荒川の氾濫リスクも感じ取れた。川を知り、どこに・どのような湿地が形成され、さらに氾濫原に浸水リスクがあるということ、そうした基本的なことを、きちんとメッセージとして伝えていく。それが流域治水への理解を深めていただくための基本になるかと思う。

そのため、天空の里から放鳥することができたら、3～4年後に荒川流域に戻ってくる確率はかなり高いと思われるため、その時に向けて、荒川を構成する小流域の自然環境をどう整えていくかという観点で、流域治水とそこにおけるグリーンインフラの配置という形での基本的な柱を立ててほしい。

それには荒川上流河川事務所と荒川流域の自治体の河川担当者間で意思疎通をしていくことがとても大事だと思う。

○　環境省 関東地方環境事務所 野生生物課

コウノトリをシンボルに、環境省でも進めている生態系保全や生物多様性の取り組みというところを、各自治体を含めて皆様に取り組んでいただいていることに感謝申し上げる。

外来種関係については、努力目標という形だが、各地方公共団体の方も外来生物の防除に取り組むよう、令和4年5月に法律を一部改正している。これに伴い環境省から自治体を支援する取り組みとして交付金の予算を確保している。詳細については環境省のホームページに資料を掲載しているが、荒川流域エコネットの地域の取り組み

においても必要であれば活用してほしい。

○　荒川上流河川事務所　大東事務所長

今回、流域治水の話題を多く出していただいた。推進協議会が立ち上がる時点ではその言葉はあまり世に出ていなかったが、激甚化する水災害が頻発していることで、あらゆる関係者が協働して流域全体で治水に取り組むという考え方が出てきた。その中で、グリーンインフラそのものである川の環境保全を進めながら、治水対策を推進していくため、国交省でもさまざまな方針を出しているところである。

河川整備のなかでは、可能な限り環境への影響を低減することに配慮しながら、改修事業を行っているが、この河川改修が環境にとってプラスになることもあるのではないかという考え方のもと、さまざまな方の意見を伺いながら事業を進めていきたいと考えている。先ほど大間の自然再生に関するご指摘もあったが、早期完成できるようにしたいと考えている。

河川改修の他にも、田んぼダムや既存の樹林地などをグリーンインフラと捉えて活用・保全し、流域治水推進や荒川流域エコネットへ貢献できることに繋がれば良いと考えている。

３．その他

（１）埼玉県 SDGs 官民連携プラットフォームへの参加について

◆　事務局

【画面共有資料】埼玉県 SDGs 官民連携プラットフォームへの参加について説明

→委員より異論なし。

閉会の挨拶

○　荒川上流河川事務所　大東事務所長

意見交換の中でお話いただいた、放鳥したコウノトリが荒川流域に戻ってきたときに良い環境がなかった、ということにならないように、我々もこの地域の取り組みを更に進めなければならないと改めて感じた。

本日出席いただいた各自治体の首長の皆様から、環境だけではなく地域振興の取り組みについても、さまざまな形で実施されているお話をお聞きして、改めて環境と地域の取り組みを一体的に進めていくことが重要と感じたところである。

今後も協議会の中でご意見を伺いながら、地域全体が良くなるように事務局も取り組んでいきたい。

以　上